

輝け 田底っ子

第 19 号

文責：校長 益永 一幸

令和4年度 田底小 チャレンジ目標

- ①最後までがんばろう ②上手に伝え合おう ③自他を大切にしよう



プール再編モデル事業 ～マリンスイミングクラブとの連携～

本事業は、老朽化したプールを再建するよりも、地理的規模的環境によっては近隣の民間のスイミングクラブとの連携で水泳授業を行うことが、財政負担減や効率的な授業効果が臨めるのではないかとということでモデル事業として行っているものです。本モデル事業の結果によって、次年度からも引き続き事業が継続する予定です。

さて、本事業の【メリット】としては、①室内なので天候に左右されない、②インストラクターによる指導ができ児童の泳力向上につながる、③プール掃除・水質管理が不要、④バスで10分以内に移動できる などが考えられます。【デメリット】としては、①クラブとの日程・指導内容の調整が必要、②遅刻者・早退者への対応 などが考えられます。

こういった事業ですが、今週から始まりました。ぜひ成功させたいと思います。保護者の皆様には、朝の健康観察をロイロノートに確実に記載いただきますようお願いいたします。また、後日、保護者へのアンケートもありますので、お子様と「水泳授業」のことも話題にさせていただきますようお願いいたします。



バスで送迎



安心の見学場所



1・2年生の様子



3・4年生の様子



5・6年生の様子

田底小のプール完成（昭和57年）

田底小のプールは、昭和57年に完成し、築40年を超えました。プールサイドも広く、最新の設備であったため、当時は水泳大会に田底小のプールは使われ、多くの学校の児童たちがこのプールで泳力を競っていたそうです。

下は、昭和57年の植木町の広報誌「広報 うえき」に掲載されていた記事です。懐かしいという思いをされる保護者も多いのではないのでしょうか。

昭和57年5月1日

広報 うえき

プール完成

田底小



完成したプール

鮮やかなブルー、広々としたプールサイドを四方に持ち、低学年用のプール（十メートル×四メートル×六メートル）も別に備えています。

トイレ、更衣室のほかにはシャワー十三基、両目洗眼器十三基あり、循環ろ過式で新しく掘った井戸から豊富な水が、プールに注がれています。

総工費約六千八百万円のうち簡易保険、郵便年金の還元融資を四千四百六十万円受けています。


このほど、田底小のプールが完成。このプールは強化プラスチック製のプールで、二十五メートル×十五メートルのコース。底はゆるやかなスロープで中央の最深部で一・一メートル、浅い所で九十センチ。色

「プール開きと落成式」

このほど田底小のプールが完成。その落成式とプール開きが行われました。

落成式は田底小PTA（会長山下公朋）が主催で、神事のあとPTA会長、麻生町長あいさつ、児童代表城人美さん（六年）が「大切に使用して水泳の練習もたあと池上校長が謝辞を述べ式を終りました。

このあと、全生徒（二五六名）



歓声をあげる子供たち